

“Echtzeitmusik

Mizuki Ishikawa Shun Momose

サウンドインスタレーション”



開催場所: Künstlerkolonie Berlin Kunstraum 24th-26th of January, 2025

7チャンネル立体音響サウンドインスタレーション

支援:

令和6年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業

協賛:

City governments of Mompeo, Montenero Sabino and Casaprota in Rieti, Italy

テクニカルサポート: Eagle Wu, Moeana Ava

## コンセプト

アンビソニックとマイクロフォンの組み合わせは、「テレプレゼンス(遠隔臨場感)」という観点において、目では見えない物体や出来事存在を聴覚的に感じ取るという、生き生きとした空間を音で表現する大きな可能性を秘めています。

このプロジェクトでは、そうした音の物理性を活かし様々な場所で設置することができるモビリティを目指して、制度化されたメディアアートや音楽研究機関から独立して芸術的なサウンドアートや新しい音楽作品を受け入れることができる、自作の立体音響プロジェクトを立ち上げました。

最初のサウンドアート作品として、部屋の音響に影響を受けるエレクトロアコースティックなフィードバックとその干渉に焦点を当てた「duo Mizuki Ishikawa/Shun Momose」の作品を取り上げ、展示を実施しました。古城での3D録音を実施し、室内空間における音の響きやダイナミクスを以て静寂とノイズを音楽的要素として用いた聴覚知覚刺激する作品は、展示空間でまったく異なる場所のサウンドスケープを現出させることに成功しました。

## 作業工程

### Process 1

音響的に興味深い空間での録音: イタリア・リエーティ県にあるモンペオ、モンテネーロ・サビーノ、カサプロータの各市の多大な協力により、現在は人が住んでいない城で、非常に高品質なアンビソニック録音を行うことができました。部屋は石造りで、明瞭な残響音が特徴的でした。



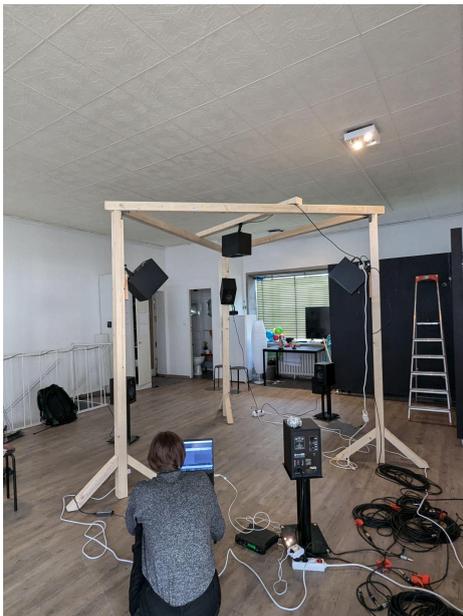
technical

support by Eagle Wu

## Process2

### 立体音響の設営

7chスピーカーシステム(3つ 膝の高さ-3つ 頭の高さ -1つ 天井の高さ)



## photos of the exhibition

42分の音の作品

鑑賞者はインスタレーションの中央のスイートスポットに座る



## 体験者の声

「この作品は音に空間的な広がりをもたらし、かつて似たような体験をした場所の記憶や過去の情景の中に、自分が立っているような感覚を与えてくれました。」

アマンダ・ウィンベルクさん

学芸雑誌Differenz Magazine編集長/フンボルト大学哲学科研究員

「通常のステレオと比べて、部屋の響きと方向指示性が明瞭だったため、録音された空間で実際に何が起きているのかを、よりはっきりと感じ取ることができました。」

クリス・リンバツハさん

Emitter Micro レーベルディレクター/サウンドアーティスト・ビデオグラファー

「上から音が聞こえてくるというのは新しい体験で、空間の感覚を強くもたらしてくれました。無響室のような、もっと遮音された環境で聴けたらよかったのと思いました。」

森本誠士

Emitter Micro レーベルディレクター/サウンドアーティスト